



Sun Fire™ X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバー ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-0764-10
2007年2月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems 社は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア（フォントに関するテクノロジーを含む）は、著作権を有する当該各社よりヘライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェイスは、がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

追加ソフトウェア 1

このリリースでの追加ソフトウェア 1

Solaris 10 6/06 1

Sun Java Enterprise System 2

Sun N1 System Manager 2

ブート可能診断 CD によるサーバーの問題の診断 3

LSI ファームウェア、サービスプロセッサ、および BIOS の問題 5

LSI ファームウェアの問題 6

RAID ボリュームにはメタデータ用にディスク容量が必要 (6312581) 6

LSI ファームウェア Version 1.08 で、ハードドライブの再同期の終了時にステータスが「Optimal (最適)」と示される (6389986) 6

サービスプロセッサの問題 7

SP 11682 および BIOS 9 を使用するシステムで、起動 CPU ダイオードの温度が通常より低くなる (6441857) 7

DIMM 障害 LED が正確に点灯しないため DIMM の障害が報告されない (6475367、6462695) 7

ハードディスクが取り外されたあと、イベントがログに書き込まれず、警告も表示されない (6306536) 8

- サービスプロセッサと USB のインタラクションにより OS が中断される
(6277725) 8
- リセット中に発生するカーネルのエラーによりハングするシステムコンポー
ネントがある (6295154) 9
- ネットワークポートが 10M バイト / 秒で作動しない (6302923) 9
- システムによる最初の iso イメージがマウントできない場合がある
(6276086) 9
- リダイレクトした Samsung SN-124 CD-ROM ドライブを使用して OS をイン
ストールできない (6279896) 10
- Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI に不正なしきい値が
表示される (6316706) 10
- ILOM Web GUI または CLI で、16 文字のパスワードを使用してサービスプロ
セッサにログインできない (6286187) 10
- 実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ
(6300437) 11
- その他の SNMP の問題 11
- SP で SNMP トラップが使用できない (6396525) 12
- シリアルポートの速度設定が、CLI セッション終了後 9600 bps に戻る
(6298521) 12
- データ転送完了後に、「Transferring data from (データ転送中)」メッ
セージがブラウザに表示される (6254310) 13
- Secure Shell (SSH) セッションまたは Java Remote Console (Java リモート
コンソール) で、Break キーが作動しない (6306610) 13
- フロッピーディスクのリダイレクションを再起動すると、JavaRConsole がハ
ングする場合がある (6295147) 13
- アクセシビリティの問題 14
- 外付けストレージのリダイレクションで表示されるエラーメッセージに誤り
がある 15
- 背面ファントレイに不正な名前が使用されている (6323731) 15
- シリアルコンソールに SSH でアクセスし、start -script コマンドを使用
するとロックする (6337909) 15

BIOS の問題 16

HBA カードを取り付けるか取り外すと、BIOS 設定のハードディスクドライブの順序が変更される (6308569、6450677) 16

すべてのデバイスがスキャンされる前に、PXE ブート用のオプション ROM の容量を使い切る (6453144、6403173、6272514、6393809、6439856、6462303) 20

BIOS ですべてのデバイスがスキャンされる前に、16 個のブートデバイス制限を超える (6268877、6439856) 22

Windows Server 2003 を実行するサーバーのメモリーが 4G バイト未満の場合に休止状態から自動的に再開されない (6458266) 24

ソフトウェアの問題 25

一般的なソフトウェアの問題 26

多数のインタフェースで、イーサネットポートのマッピングが物理ポートの番号と異なる (6421259) 26

messages または dmesg ファイルに「Unknown Event e (不明なイベント e)」というメッセージが表示される (6459169) 27

Intel Teaming ソフトウェアにより NVIDIA のイーサネットポートがチーム化されない (6469520) 27

AC 電源が切断されると、JavaRconsole の再起動やリダイレクトの開始ができない (6434210) 28

Solaris オペレーティングシステムの問題 28

Solaris 10 6/06 で、Netgear スイッチを使用してポート速度を変更すると、NVIDIA NIC への接続が失われる (6419824、6441359) 28

Solaris の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視してかまわない (6468360) 29

Linux オペレーティングシステムの問題 30

RHEL4 U2 および RHEL4 U3 で、GUI をブート中に無視できるエラーメッセージが表示される (6416608) 30

SLES9 SP3 で、ext3 ファイルシステムに初めて書き込み中に無視できるエラーメッセージが表示される (6422442) 30

RHEL4 U3-x86_64 で、ブートアップ後に Intel のネットワークインタフェースカードが異なる論理名で表示される (6423182) 31

RHEL4 U3 を実行しているサーバーでパワーサイクルを実行後に
「Enabling Swap Space (スワップ空間を有効にしています)」という
メッセージが表示され、システムがハングする (6475253、6470496) 32

RHEL4 U3-86_64 で、`ctrl` または `Alt` コマンドを使用して SummitQ または
SummitE PCI カードの BIOS のオプションを有効にすると、ブート優先
度のリストから削除される NIC がある (6462303) 32

Solaris オペレーティングシステムの問題 33

Solaris OS の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視
してかまわない
(6438926、6447850) 33

Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題 34

Windows システムにプラットフォーム固有のドライバをインストールする
とき、NVIDIA Network Bus Enumerator のドライバを手動でアップデート
する必要がある (6464839) 34

複数のフロッピードライブが存在すると、Windows ユーティリティの
`mkfloppy.exe` により正しいフロッピードライブが選択されない 41

SunVTS のブート可能診断 CD 42

SunVTS のブート可能診断 CD バージョン 2.1f の .iso イメージからブートす
る場合に表示されるメッセージは無視してかまわない (CR 6470488) 42

ブート可能診断 CD (Version 2.1f) の「Meter (メーター)」ボタンが機能し
ない (6465167) 43

ハードウェアの問題 45

推奨できない光学式マウスおよびキーボード (6299692、6317710、
6304725) 45

「Bank Interleave Requested But Not Enabled (要求されたバンクイ
ンタリーブが有効になっていません)」というメッセージが表示される
(6464704) 46

索引 47

はじめに

この『Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーご使用にあたって』では、Sun Fire™ X4100 M2 サーバーと Sun Fire X4200 M2 サーバーのハードウェアの問題、ソフトウェアの問題、およびドキュメントの問題について説明します。

Sun Fire X4100 サーバーと Sun Fire X4200 サーバーに固有の注意点については、本書と同じ URL からアクセス可能な『Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers Product Notes (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーご使用にあたって)』(820-0729) を参照してください。

問題に番号が記載されていることがあります (括弧内に表示)。これは、サービスプロバイダ用の追跡番号です。変更リクエストのアップデートおよびパッチについては、SunSolveSM Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) を参照してください。

注 – システムに同梱の CD に収録されているソフトウェアは、出荷時に取得された最新版です。再インストールやシステムリカバリに使用できます。ソフトウェアのバージョンは頻繁にアップデートされるので、製品ダウンロードサイトで、Sun の承認を受けたソフトウェアの最新版がリリースされていないかどうかを確認してください。

関連ドキュメント

Sun Fire X4100 M2 サーバーと Sun Fire X4200 M2 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4100/index.html

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Fire X4100 M2 サーバーと Sun Fire X4200 M2 サーバー製品のアップデートについては、次の Web サイトの「Downloads (ダウンロード)」リンクを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/entry/x4100/downloads.jsp>

このサイトでは、ファームウェアとドライバ、CD-ROM .iso イメージのアップデートが提供されています。

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、ユーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

Sun ドキュメントへのアクセス

翻訳バージョンも含めたさまざまな Sun ドキュメントを、次のサイトで表示、印刷、購入できます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun テクニカルサポートの連絡先

サーバーに関して、本書に記載されていないテクニカルな質問がある場合は、次のサイトをご利用ください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。Sun 社へのフィードバックには、次の Web ベースのフォームをご利用ください。

<http://www.sun.com/secure/products-n-solutions/hardware/docs/feedback/>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーご使用にあたって』、
部品番号 820-0764-10

追加ソフトウェア

この章では、Sun Fire™ X4100 M2 サーバーと Sun Fire X4200 M2 サーバーに同梱されているソフトウェアの概要を説明します。

このリリースでの追加ソフトウェア

次のソフトウェアは、すべての Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーに付属しています。

- Solaris™ 10 (ハードディスクにプリインストール)
- Sun Java™ Enterprise System (Java ES) 2005 (90 日間評価版)
- Sun™ N1 System Manager (在庫がある場合のみ)

Solaris 10 6/06

Solaris 10 6/06 オペレーティングシステムは、IT プロフェッショナルが求めるセキュリティ、管理の容易性、およびパフォーマンスを実現し、これによりサービスレベルの向上とコストおよびリスクの削減が可能になります。また、Sun Java Enterprise System の基礎コンポーネントとしても機能します。Sun Java Enterprise System は、新しい予測可能なアプローチを使って開発、テスト、およびサービス提供を行う、統合されたオープンな標準ベースのソフトウェアシステムです。

Solaris 10 6/06 OS を削除後に再インストールが必要になった場合、CD または DVD イメージをダウンロードできます。

- CD イメージをダウンロードするには、次の Web サイトを参照してください。
<http://javashopl.m.sun.com/ECom/docs/Welcome.jsp?StoreId=8&PartDetailId=Sol10-hw1-x86-G-F&TransactionId=try>

- DVD イメージをダウンロードするには、次の Web サイトを参照してください。

<http://javashopl.m.sun.com/ECom/docs/Welcome.jsp?StoreId=8&PartDetailId=Sol110-hw1-x86-DVD-G-F&TransactionId=try>

Solaris 10 のオンラインドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/coll/1236.1>

Sun Java Enterprise System

Sun Java Enterprise System (Java ES) は、ネットワークまたはインターネット環境を通じて配布される企業規模のアプリケーションをサポートするのに必要なサービスを構築する、一連のソフトウェアコンポーネントです。

Java ES のオンラインドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q1>

Sun N1 System Manager

Sun N1 System Manager は、何百ものシステムを管理する俊敏性を持つ一方で、管理者がコストを削減しながら管理の複雑さを軽減するのに役立つ、集約されたシステムマネージャーです。N1 System Manager ソフトウェアを使用すると、システム管理者は、1 つでも何百個でも、Sun システムを検出、プロビジョニング、パッチ、監視、および管理することができます。N1 System Manager ソフトウェアの利点には、集中管理方式で対話的な、使いやすいブラウザとコマンドラインインターフェイス (CLI) があり、これにより管理者は、単一のシステムまたはシステムグループに対してすばやく正確な変更を行うことができます。

Sun N1 System Manager のオンラインドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/coll/1283.2>

Sun N1 System Manager についての詳細は、次の Web サイトを参照してください。

http://www.sun.com/software/products/system_manager

ブート可能診断 CD によるサーバーの問題の診断

サーバーには、SunVTS 診断ソフトウェアが収録された、Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーブート可能診断 CD (705-1439) が付属しています。CD の Solaris オペレーティングシステムを使ってサーバーがブートされた後、SunVTS ソフトウェアが開始されます。診断テストが実行されてログファイルが出力されるので、サービス技術者は、このログファイルを使用してサーバーの問題を判断できます。

要件

- Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーブート可能診断 CD を使用するには、診断を実行するサーバーにキーボード、マウス、およびモニターを接続する必要があります。

LSI ファームウェア、サービスプロセッサ、および BIOS の問題

この章では、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関連する LSI ファームウェア、Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP)、および BIOS の問題について説明します。次の項目を扱います。

- 「LSI ファームウェアの問題」 (6 ページ)
- 「サービスプロセッサの問題」 (7 ページ)
- 「BIOS の問題」 (16 ページ)

注 – 問題の記述において特定のプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに該当します。

LSI ファームウェアの問題

RAID ボリュームにはメタデータ用にディスク容量が必要 (6312581)

RAID ボリュームを作成するには、ファームウェアと BIOS によりハードディスクドライブ (HDD) の最後にメタデータを書き込む必要があります。このため、少なくとも 64M バイトのパーティション分けしていないディスク容量がメタデータ用に必要です。プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムを使用している場合、64M バイトを超えるディスク容量がパーティション分けされずにメタデータ用に確保されています。

LSI ファームウェア Version 1.08 で、ハードドライブの再同期の終了時にステータスが「Optimal (最適)」と示される (6389986)

LSI ファームウェア Version 1.08 以降で、再同期が開始されても進捗状況が 0% のままのことがあります。再同期が終了すると、ステータスとして「Optimal (最適)」と表示されます。

対処方法

ありません。これは、LSI ファームウェア Version 1.08 以降では正常な動作です。

サービスプロセッサの問題

SP 11682 および BIOS 9 を使用するシステムで、 起動 CPU ダイオードの温度が通常より低くなる (6441857)

SP 11682 と BIOS 9 を使用する Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーには、CPU の温度を報告するセンサーが搭載されています。温度の測定値は、CPU にかかる作業負荷によって大きく変化します。PowerNOW! サポート付きの新型の AMD プロセッサが、仮想 CPU の温度を CPU の実際の物理的な温度より大幅に低く報告することがあります。場合によっては、マイナスの温度が報告されることもあります。

詳細は、『AMD BIOS and Kernel Developers Guide (AMD BIOS およびカーネル開発者ガイド)』および『ILOM Supplement for Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー用 ILOM 補足ドキュメント)』を参照してください。これらのドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

対処方法

その他の周辺温度センサーも調べながら、システムの物理的な温度を監視します。

DIMM 障害 LED が正確に点灯しないため DIMM の障害が報告されない (6475367、6462695)

サーバーの BIOS と SP のイベントログではそれぞれシステムの DIMM エラーが正常に報告されますが、DIMM スロットのエジェクターレバーに付いている DIMM 障害 LED は正しく点灯せず、DIMM エラーが報告されません。

対処方法

DIMM 障害 LED は無視して BIOS と SP のログのみを使用し、どの DIMM ペアでエラーが発生しているかを判断します。

ハードディスクが取り外されたあと、イベントがログに書き込まれず、警告も表示されない (6306536)

ハードディスクをシステムから取り外すと、サービスプロセッサでは、ログにイベントの書き込みを行わず、警告も表示しません。ディスクドライブのホットプラグが行われると、サービスプロセッサは LSI SAS コントローラからイベントを受信せず警告も発生しないため、これは正常な動作です。

サービスプロセッサと USB のインタラクションにより OS が中断される (6277725)

サービスプロセッサをリセットするには、たとえば次のようないくつかの方法があります。

- ILOM Web GUI の「Reset SP (リセット SP)」タブを使用
- ILOM CLI の `reset SP` コマンドを使用
- IPMItool コマンド `IPMI_MC_RESET_COLD` を使用
- リモートマウスのエミュレーションモード変更の副次的効果を利用

どの方法でリセットしても、サービスプロセッサとシステムの間で USB プラグイベントまたはアンプラグイベントにより、システムが中断やハングが発生することがあります。

対処方法

サービスプロセッサを確実にリセットし、USB イベントによりシステムがハングしないようにするには、OS の USB サポートを最小またはなしに設定します。

サービスプロセッサのリセット中はシステムをリブートしないでください。リブートすると、システムがハングする場合があります。あるいは、ブートする前にマウスモードを適切な状態に変更します。

システムがオフまたはリセット状態にあるときにだけサービスプロセッサをリセットするようにスケジュールしておくこと、サービスプロセッサとシステムのインタラクションを防ぎます。

リセット中に発生するカーネルのエラーによりハングするシステムコンポーネントがある (6295154)

フラッシングまたはマウスモードの変更中などにサービスプロセッサがリセットしている間、SP カーネルエラーが発生する場合があります。このエラーが起きてもサービスプロセッサにはアクセスできますが、シリアルログイン、SSH、Web GUI、および CLI サービスはハングします。

対処方法

残りの機能を使ってシステムをリセットするか、またはシステムの電源をオフにしてリセットします。

ネットワークポートが 10M バイト / 秒で作動しない (6302923)

サービスプロセッサのイーサネットポートは、100M バイト / 秒でのみ作動します。10M バイト / 秒では作動しません。

対処方法

ありません。

システムによる最初の iso イメージがマウントできない場合がある (6276086)

ILOM Web GUI を使用して RHEL または SUSE Linux ディストリビューションをインストールする場合は、iso イメージのマウントを解除してから新しいイメージをマウントすると、新しいイメージの最初の読み込み時に障害が発生する場合があります。

対処方法

新しいイメージを再マウントします。2 度目には正常にマウントされます。

リダイレクトした Samsung SN-124 CD-ROM ドライブを使用して OS をインストールできない (6279896)

Java Remote Console (Java リモートコンソール) を使用して Samsung SN-124 CD-ROM ドライブからオペレーティングシステム (OS) をインストールする場合に、仮想 CD-ROM ドライブが認識されないことがあります。

対処方法

他のデバイスからリダイレクトされたイメージファイルを使用して OS をインストールします。

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI に不正なしきい値が表示される (6316706)

ILOM Web GUI で、温度センサーなどの不正なしきい値が表示されることがあります。また、しきい値のないセンサーの値がランダムに表示されることもあります。

対処方法

ありません。

ILOM Web GUI または CLI で、16 文字のパスワードを使用してサービスプロセッサにログインできない (6286187)

パスワードの文字数がちょうど 16 文字の場合は、ILOM Web GUI または CLI を使用してサービスプロセッサ (SP) にログインできません。

対処方法

16 文字より少ない文字数のパスワードを指定してください。

実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ (6300437)

次のトラップは現在サポートされていません。

- SUN-PLATFORM-MIB
 - sunPlatObjectCreation
 - sunPlatObjectDeletion
 - sunPlatCommunicationsAlarm
 - sunPlatEnvironmentalAlarm
 - sunPlatEquipmentAlarm
 - sunPlatProcessingErrorAlarm
 - sunPlatStateChange
 - sunPlatAttributeChangeInteger
 - sunPlatAttributeChangeString
 - sunPlatAttributeChangeOID
 - sunPlatQualityOfServiceAlarm
 - sunPlatIndeterminateAlarm
- ENTITY-MIB
 - entConfigChange
- SNMPv2-MIB
 - coldStart
 - warmStart
 - authenticationFailure

その他の SNMP の問題

次の SNMP の問題は、限界があることがわかっている制限事項です。

- SNMP エージェントは現時点では、Entity および Sun Platform MIB で SET を処理できません。このため、SET を含む準拠確認テストはエラーになります。必要なタスクを実行するには、他のサービスを利用してください。(6255301)
- SNMP ユーザーの削除中に表示される各エラーメッセージが明確ではありません。たとえば、ある動作に続いてユーザーが削除されているときに、「Target cannot be deleted (ターゲットは削除できません)」というメッセージが表示されます。通常、これらのコマンドは無視してかまいません。ただし、スクリプトされたコマンドは正常に終了しない場合があります。(6284706)
- 複数の接続があると、それに対応して SNMP エージェントが停止します。この場合、SNMP またはシステムをリブートする必要があります。(6290651)

- ユーザーが追加されると、エラーメッセージが表示されます。たとえば、「SNMP agent not up yet, may be reconfiguring (SNMP エージェントがブートしていません。再設定中の場合があります)」というメッセージが表示されます。通常、このメッセージは無視してかまいません。(6292473)
- sysUpTime の値が不正である場合があります。たとえば、数日前に組み立てられたシステムの連続稼働時間が 51 日間と表示されることがあります。この値は無視してかまいません。(6295609)
- CLI を使用してコミュニティ最大数を設定すると、SNMP エージェントが切断され、システムのリポートが必要になる場合があります。(6316403)

SP で SNMP トラップが使用できない (6396525)

サービスプロセッサは、SUN-PLATFORM-MIB の SNMP トラップをサポートしていません。

対処方法

この問題に対処するには、SNMP トラップの一種である IPMI PET トラップを使用します。IPMI PET トラップを実装するには、サービスプロセッサで警告ルールを設定するか、直接 IPMI で PEF ルールを設定します。詳細は、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) を参照してください。

シリアルポートの速度設定が、CLI セッション終了後 9600 bps に戻る (6298521)

CLI セッションを終了すると、シリアルポートの速度は 9600 bps にリセットされます。このため、シリアルポートの速度を 9600 bps 以外の値に設定すると、CLI セッションを終了したあとにポートが作動しなくなる場合があります。

対処方法

シリアル管理ポートの速度は、常に 9600 bps にしておいてください。

データ転送完了後に、「Transferring data from (データ転送中)」メッセージがブラウザに表示される (6254310)

Mozilla™ ブラウザを使用している場合は、転送が完了していてもステータスエリアに「Transferring data from (データ転送中)」メッセージが表示される場合があります。これはブラウザの問題であり、Sun ILOM ソフトウェアの問題ではありません。このバグの詳細は、次を参照してください。

https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=185547

対処方法

ありません。

Secure Shell (SSH) セッションまたは Java Remote Console (Java リモートコンソール) で、Break キーが作動しない (6306610)

Break (ブレーク) は、シリアル管理ポートからのみシステムのシリアルポートに転送されます。SSH セッションや Java Remote Console (Java リモートコンソール) で `ssh ~B` を入力しても、Break キーは作動しません。

対処方法

ありません。

フロッピーディスクのリダイレクションを再起動すると、JavaRConsole がハングする可能性がある (6295147)

仮想デバイスで稼動している JavaRconsole は、ハングすることがあります。

対処方法

JavaRconsole を切断してから再起動します。

アクセシビリティの問題

アクセシビリティとは、障害のある人が、サービス、商品、情報の利用など、生きていくうえで重要な活動での障壁を取り除くことをいいます。容易にアクセスできることは、より多くのユーザーにとって有益であるだけでなく、現在は米国リハビリテーション法 508 条により、連邦政府とのあらゆる契約での要件になっています。また民間企業では、米国障害者法 (ADA) により、現在および将来にわたり従業員に適切な便宜を図るうえで、同様な配慮が求められています。

Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー は、508 条で求められるアクセシビリティを満たしています。ただし、SP ファームウェア GUI で、アクセシビリティに関する次の問題が確認されています。

- フォーカスが低レベルのタブメニューにあると、Tab キーが高レベルに移動しません。この問題は、Mozilla Firefox で確認されています。(6316639)
- JavaScript™ 警告および GUI の確認ボックスには一般的なメニュータイトルがつけられ、内容について十分な説明がありません。(6274918)
- Mozilla では、トップレベルのフレームにタブをつけることができません。また、Mozilla で語句を入力してアイテムを検索する機能は、一部機能しません。フレームはハイライト表示されますが、ボタンなどのアクションアイテムはハイライト表示されません。(6278273)
- 「Select Action (動作を選択)」プルダウンリストで下向き矢印を押すと、フォーカスが移動してリセットされます。下向き矢印を使用してリストの残り部分をスクロールすることはできません。この問題は、Internet Explorer で確認されています。(6316634)
- 「Add User (ユーザーを追加)」ポップアップメニューの「Add (追加)」ボタンにタブで移動して Enter キーを押すと、ユーザーエントリが追加されないままページが閉じます。この問題は、Internet Explorer で確認されています。(6316625)
- Tab キーを押しても、フォーカスが選択されたタブの中で低レベルのタブに移動しません。(6245789)
- Internet Explorer で Tab キーを押しても、選択されていないラジオボタンにはフォーカスが移動しません。また、ラジオボタンが選択されている場合は、キーボードを使って選択解除できません。(6316591)
- Internet Explorer で Tab キーを押しても、GUI にあるチェックボックスにはフォーカスが移動しません。(6316621)
- 一部のページに、支援技術で読み取れない JavaScript リンクが含まれているため移動できません。(6255423)

外付けストレージのリダイレクションで表示されるエラーメッセージに誤りがある

ILOM Web GUI の「Remote Console (リモートコンソール)」 → 「Redirection (リダイレクション)」で Java Remote Console (Java リモートコンソール) を起動して、リモートストレージデバイスをサーバーにリダイレクトすることができます。ILOM にはこの機能があるため、オペレーティングシステムで、リダイレクトされる USB ストレージデバイスを、常に接続されているものとして表示することがあります。

ただし、リダイレクションが無効に設定されていると、デバイスにアクセスすると、「Drive not ready (ドライブの準備ができていません)」か「No media found (メディアが見つかりません)」のいずれかのエラーメッセージが表示されます。ストレージのリダイレクションを開始または停止すると、仮想デバイスそのものが追加または削除されるわけではなく、仮想デバイスにあるメディアだけが追加、削除されます。

背面ファントレイに不正な名前が使用されている (6323731)

内部ソフトウェアで、Sun Fire X4200 M2 サーバーの背面ファントレイを参照するのに io.f0 (入出力ファン 0) という名前が誤って使用されています。正しい名前は FT2 です。

対処方法

ありません。

シリアルコンソールに SSH でアクセスし、start -script コマンドを使用するとロックする (6337909)

SSH 経由で SP CLI モードに接続している間に、SP コンソールに start -script コマンドでログインすると、シリアルコンソール接続が断続的にロックします。

対処方法

start -script コマンドではなく SP start console コマンドを使用して SP コンソールに接続します。

シリアルコンソール接続がロックしたら、SSH セッションを終了してから SP start console コマンドを使用して再接続します。

BIOS の問題

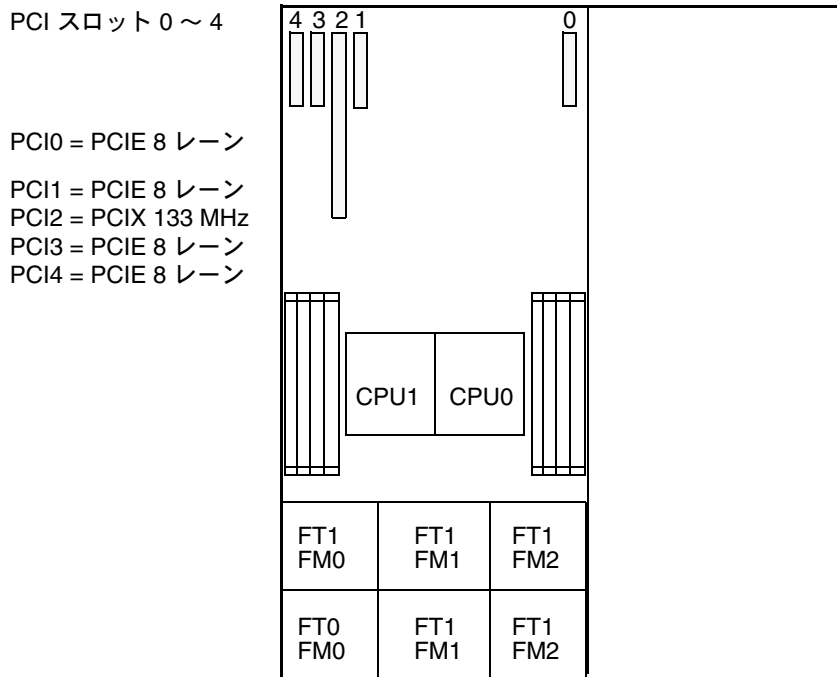
HBA カードを取り付けるか取り外すと、BIOS 設定のハードディスクドライブの順序が変更される (6308569、6450677)

サポートされているホストバスアダプタ (HBA) カードを取り外すか取り付けると、BIOS 内の HDD の順序が変更されることがあります。HBA に接続されている HDD が先にスキャンされた場合に、システムを内蔵 HDD から OS レベルまでブートできないことがあります。

BIOS は デバイスを昇順 (低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ) でスキャンします。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. PCIE スロット 0
2. PCIE スロット 1
3. PCIE スロット 3
4. PCIE スロット 4
5. PCIX スロット 2
6. 内蔵 NIC
7. 内蔵 SAS コントローラ
8. USB

PCI スロットの位置は、[図 1](#) と [図 2](#) を参照してください。



サーバーの前面パネル

図 1 Sun Fire X4200 M2 サーバーの PCI スロットの構成と速度

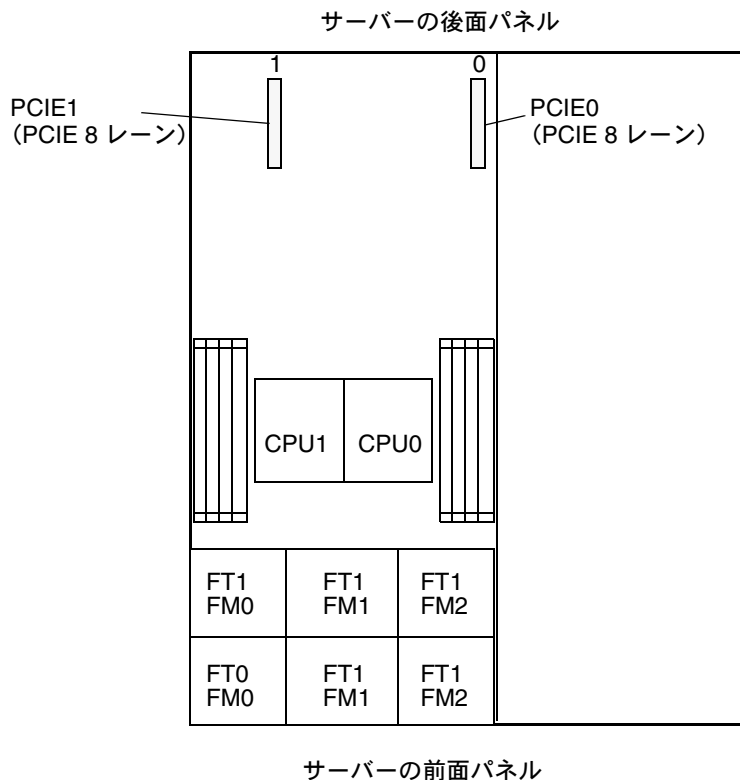


図 2 Sun Fire X4100 M2 サーバーの PCI スロットの構成と速度

対処方法

これは、正常な動作です。外付けストレージデバイスに接続された、サポートされている HBA カードを取り付けるか取り外した後に、目的のデバイスからブートできるようにするには、次の 2 つの方法があります。

- ブートするデバイスが BIOS の 16 個のブートデバイスリストに表示されている場合は、次のオプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。
- ブートするデバイスが 16 個のブートデバイスリストに表示されていない場合は、次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

オプション 1: PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM のスキャンを無効にします。こうすることで、ブートするデバイスがリストに表示されるようになります。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。

2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCI/PnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

オプション 2: BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量を使い切る前にスキャンされるように、PXE ブートするデバイスのブート順を繰り返します。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択します。
4. ブートデバイスの選択項目を変更して、必要なブートデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

すべてのデバイスがスキャンされる前に、PXE ブート用のオプション ROM の容量を使い切る (6453144、6403173、6272514、6393809、6439856、6462303)

BIOS オプション ROM は 128K バイト です。そのうち約 80K バイトは VGA コントローラ、LSI コントローラ、NIC で使用されます。オプション ROM 自体で使用できるのは、残りの約 48K バイトです。

PXE ブートで使用される、取り付け済みの PCI デバイスの数によっては、内蔵 NIC、SAS コントローラ、ブート順の後ろにある PCI カードが BIOS でスキャンされる前に、オプション ROM の容量がなくなる可能性があります。これは、正常な動作です。

考えられる影響

- イーサネットポートから PXE ブートできず、「Not enough space to copy PCI Option ROM (PCI オプション ROM をコピーするのに十分な容量がありません)」というエラーメッセージが表示されます。
- イーサネットポートから PXE ブートできず、「Base-Code ROM ID structure not found (ベースコード ROM ID 構造が見つかりませんでした)」というエラーメッセージが表示されます。
- オプション ROM の容量を使い切った後にスキャンされる PCI スロットに PCI カードが取り付けられていると、PXE ブートできません。
- オプション ROM の容量を使い切った後にスキャンされる PCI スロットに HBA カードが取り付けられていると、そのカードと HDD アレイは検出されません。

BIOS は デバイスを昇順 (低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ) でスキャンします。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. PCIE スロット 0
2. PCIE スロット 1
3. PCIE スロット 3
4. PCIE スロット 4
5. PCIX スロット 2
6. 内蔵 NIC
7. 内蔵 SAS コントローラ
8. USB

PCI スロットの位置は、[図 1](#) と [図 2](#) を参照してください。

対処方法

目的のデバイスから PXE ブートできるようにオプション ROM の容量を確保するには、次の 2 つの方法があります。

- ブートするデバイスが BIOS の 16 個のブートデバイスリストに表示されている場合は、次のオプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。
- ブートするデバイスが 16 個のブートデバイスリストに表示されていない場合は、次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

オプション 1: PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM のスキャンを無効にします。こうすることで、PXE ブートするデバイス用にオプション ROM の容量を確保できます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCI/PnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

オプション 2: BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量を使い切る前にスキャンされるように、PXE ブートするデバイスのブート順を繰り上げます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. 「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択するか、リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択します。
4. ブートデバイスまたはハードディスクドライブの選択項目を変更して、必要なデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。

6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

BIOS ですべてのデバイスがスキャンされる前に、16 個のブートデバイス制限を超える (6268877、6439856)

サーバー BIOS は最大 16 個のデバイスをスキャンできますが、サーバーに取り付けたデバイスによっては、すべてのデバイスがスキャンされる前に、制限を超える可能性があります。たとえば、ディスクアレイが接続された HBA を、内蔵 LSI SAS コントローラの前にスキャンされる PCI スロットに取り付けた場合に、HBA とその HDD で 16 個のデバイス制限を超えると、内蔵 HDD はスキャンされません。

これは、正常な動作です。17 個目以降のデバイスは、OS レベルでは参照できませんが、POST 中の BIOS ではスキャンされません。

考えられる影響

- 内蔵 HDD からブートできません。
- NIC はスキャンされず、PXE ブートで使用できません。

BIOS は デバイスを昇順 (低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ) でスキャンします。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. PCIE スロット 0
2. PCIE スロット 1
3. PCIE スロット 3
4. PCIE スロット 4
5. PCIX スロット 2
6. 内蔵 NIC
7. 内蔵 SAS コントローラ
8. USB

PCI スロットの位置は、[図 1](#) と [図 2](#) を参照してください。

対処方法

次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

オプション 1: PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM のスキャンを無効にします。こうすることで、PXE ブートするデバイス用にオプション ROM の容量を確保できます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCI/PnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

オプション 2: BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量を使い切る前にスキャンされるように、PXE ブートするデバイスのブート順を繰り返します。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. 「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択するか、リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択します。
4. ブートデバイスまたはハードディスクドライブの選択項目を変更して、必要なデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

Windows Server 2003 を実行するサーバーのメモリーが 4G バイト未満の場合に休止状態から自動的に再開されない (6458266)

Windows Server 2003 を実行するサーバーのメモリーが 4G バイト未満の場合は、休止状態から自動的に再開されません。

この問題に対処するには、次の 3 つの方法があります。

- サーバーのメモリーが 4G バイト未満の場合は、システムが休止状態になったら、手動で再起動します。
- サーバーのメモリーがちょうど 4G バイトの場合は、BIOS 設定ユーティリティで「Software Memory Hole (ソフトウェアメモリーホール)」を有効にしてからシステムを再起動します。この BIOS 設定が無効になっていると、休止状態から再開した後に物理メモリーの一部が再マッピングされず、4G バイト未満のメモリーしか使用できなくなります。
- すべてのサーバーで InstallPack.exe アプリケーションを実行し、システム固有のドライバを更新して個々の休止状態を無効にします。

InstallPack.exe アプリケーションは、次のサイトからダウンロードできます。

- Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの場合
<http://www.sun.com/servers/entry/x4100/downloads.jsp>
- Sun Fire X4600 サーバーの場合
<http://www.sun.com/servers/x64/x4600/downloads.jsp>

ソフトウェアの問題

この章では、Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーに関連するソフトウェアの問題について説明します。次の項目が含まれています。

- 「一般的なソフトウェアの問題」 (26 ページ)
- 「Solaris オペレーティングシステムの問題」 (28 ページ)
- 「Linux オペレーティングシステムの問題」 (30 ページ)
- 「SunVTS のブート可能診断 CD」 (42 ページ)
- 「Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題」 (34 ページ)

一般的なソフトウェアの問題

多数のインタフェースで、イーサネットポートのマッピングが物理ポートの番号と異なる (6421259)

Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーには、4つの10/100/1000BASE-T ギガビットイーサネットポート (NIC) があります。図3は、シャーシ上の物理ポートのラベルを示します。

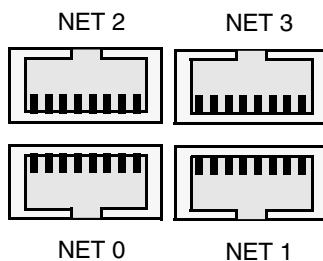


図3 シャーシ上のイーサネットポートのラベル構成

図4は、図3の4つのイーサネットポートが各ソフトウェアのインタフェースでどのようにマッピングされるかを示します。

BIOS		Solaris 10		RedHat Linux 4		Windows 2003	
スロット 110	スロット 111	e1000 g0	e1000 g1	eth0	eth1	net3	net4
スロット 108	スロット 109	nge0	nge1	eth2	eth3	net	net2

図4 Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーのイーサネットポートマッピング

対処方法

ありません。これは、正常な動作です。

messages または dmesg ファイルに「Unknown Event e (不明なイベント e)」というメッセージが表示される (6459169)

サーバーの /var/adm/messages ファイルまたは dmesg ファイルに次のメッセージが表示されることがあります。

```
mpt():unknown event e received.(mpt(): 不明なイベント e を受信しました)
```

このメッセージは、QUEUE FULL イベント (キューに最大数のメッセージが含まれている状態) が発生したときに表示されます。

対処方法

特別な操作は必要ありません。LSI SAS コントローラのファームウェアによって処理されます。

Intel Teaming ソフトウェアにより NVIDIA のイーサネットポートがチーム化されない (6469520)

Windows の InstallPack.exe や OptPack.zip に含まれる Intel Teaming ソフトウェアでは、Intel のネットワークポートはチーム化されますが、NVIDIA のネットワークポートはチーム化されません。

対処方法

ありません。

AC 電源が切断されると、JavaRconsole の再起動 やリダイレクトの開始ができない (6434210)

JavaRconsole を使用中にシステムへの AC 電源が切断されると、「Restart (再起動)」または「Start redirection (リダイレクトの開始)」オプションを選択しても、コンソールが再起動しません。

対処方法

コンソールの接続が失われたことを示す「Lost Connection (接続喪失)」ポップアップウィンドウが表示されるまで待ち、「Restart (再起動)」または「Start redirection (リダイレクトの開始)」オプションを選択して JavaRconsole を再起動します。

Solaris オペレーティングシステムの問題

Solaris 10 6/06 で、Netgear スイッチを使用して ポート速度を変更すると、NVIDIA NIC への接続 が失われる (6419824、6441359)

Solaris 10 6/06 を実行しているサーバーで特定モデルの Netgear のギガビットスイッチを使用しているときに、Netgear ポートの速度を 1000 から 100 に変更すると、NET0 および NET1 イーサネットポート (Solaris 10 では nge0 および nge1) とスイッチの間のリンクが再確立されません。この問題は、Netgear スイッチ GS724TS および GS748T で発生することが確認されています。

イーサネットポートの位置については、「[多数のインタフェースで、イーサネットポートのマッピングが物理ポートの番号と異なる \(6421259\)](#)」(26 ページ) を参照してください。

対処方法

ありません。

Solaris の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視してかまわない (6468360)

Solaris AMD x64 サポートには、AMD Opteron エラッタ 131 の BIOS 回避策の有無を確認するブート時チェックが含まれています。エラッタ 131 の回避策が必要であるのに、まだ実装されていないことを検出すると、Solaris は次の警告メッセージをログに記録して表示します。

```
WARNING: BIOS microcode patch for AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm)
processor erratum 131 was not detected; updating your system's BIOS
to a version containing this microcode patch is HIGHLY recommended or
erroneous system operation may occur.
```

(警告：AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm) プロセッサエラッタ 131 用の BIOS マイクロコードパッチが検出されませんでした。システムの BIOS をこのマイクロコードパッチを含むバージョンに更新することを強くお勧めします。更新しないと、システムの誤動作が発生する可能性があります)

Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーの BIOS は、エラッタ 131 に必要な回避策を含む上位回避策を実装しているため、この警告メッセージは無視してかまいません。

Linux オペレーティングシステムの問題

RHEL4 U2 および RHEL4 U3 で、GUI をブート中に無視できるエラーメッセージが表示される (6416608)

RHEL4 U2、RHEL4 U3、または SLES9 SP3 を実行しているサーバーで、グラフィカルユーザーインターフェースをブートしているときに、dmesg ログに次のエラーメッセージが複数回、表示されることがあります。

```
drivers/usb/input/hid-input.c: event field not found  
(drivers/usb/input/hid-input.c: イベントフィールドが見つかりません)
```

X 初期化中に、デバイスの一部が同期を失い、EV_REP イベントの一部が入力イベントとして誤って解釈される可能性があります。これは HID ドライバのバグが原因で発生します。このメッセージは無視してかまいません。

対処方法

現時点ではありません。この問題は Linux カーネルの今後のアップデートで解決される予定です。

SLES9 SP3 で、ext3 ファイルシステムに初めて書き込み中に無視できるエラーメッセージが表示される (6422442)

SLES9 SP3 を実行している Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーで、ext3 ファイルシステムのパーティションを作成してから、そのファイルシステムをマウントしてファイルを書き込むと、次の JBD 警告メッセージが表示されます。

```
JBD: barrier-based sync failed on sd<X><Y> - disabling barriers  
(JBD: sd<X><Y> でバリアー同期ができません。バリアーを無効にします)
```

このメッセージは無視してかまいません。

対処方法

このメッセージは無視してかまいませんが、次のように、`data=writeback` か `barrier=none` のいずれかのコマンドパラメータを使って ext3 ファイルシステムをマウントすることで問題に対処することもできます。

```
mount -O barrier=none -t ext3 /dev/sd<X><Y> /mnt/<mount_point>
```

RHEL4 U3-x86_64 で、ブートアップ後に Intel のネットワークインタフェースカードが異なる論理名で表示される (6423182)

RHEL4 U3-x86 の 64 ビット版システムで、電源オフの状態ですべての PCIE スロットに Intel のイーサネットカードを取り付けてからリブートすると、そのスロットの Intel ネットワークインタフェースカード (NIC) の論理名が、ほかのネットワークデバイスと異なる名前が表示されます。さらに、カードのインスタンス番号も変わります。

対処方法

次の手順に従って、同じカード名が表示されるようにします。

1. 端末ウィンドウを開きます。

2. 次を実行してネットワークを停止します。

```
# service network stop
```

3. 次を実行して Kudzu データベースを削除します。

```
# rm /etc/sysconfig/hwconf
```

4. 次を実行して `sysconfig` ディレクトリの `ifcfg-eth` ファイルを削除します。

```
# rm -f /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth*
```

```
# rm -f /etc/sysconfig/networking/devices/ifcfg-eth*
```

```
# rm -f /etc/sysconfig/networking/profiles/default/ifcfg-eth*
```

5. `modprobe.conf` ファイルを `ethX` 参照用に編集します。

```
alias eth* または alias dev* で始まる行をすべて削除します。
```

6. システムをリブートします。

7. `neat` コマンドを使用して、ネットワークデバイスを再設定します。

RHEL4 U3 を実行しているサーバーでパワーサイクルを実行後に「Enabling Swap Space (スワップ空間を有効にしています)」というメッセージが表示され、システムがハングする (6475253、6470496)

AC 電源のパワーサイクルを実行すると、起動中に「Enabling swap space (スワップ空間を有効にしています)」というメッセージが表示され、REHL4 U3 がハングすることがあります。これは、Kudzu のバグによる問題です (RedHat Bugzilla のエントリ 197722 を参照)。

システムがハングしたら、サーバーをリブートし、リブート中にファイルシステムをチェックするかどうかを確認するメッセージが表示されたら **y** を入力します。

対処方法

この問題を回避するには、コマンドラインで Kudzu を無効にします。

- 現在のセッションで Kudzu を無効にするには、次のように入力します。

```
prompt> service kudzu stop
```

- 今後のセッションで Kudzu を無効にするには、次のように入力します。

```
prompt> chkconfig --level 345 kudzu off
```

RHEL4 U3-86_64 で、**ctrl** または **Alt** コマンドを使用して SummitQ または SummitE PCI カードの BIOS のオプションを有効にすると、ブート優先度のリストから削除される NIC がある (6462303)

RHEL4 U3-86_64 で、<ctrl + Q> または < Alt + E > コマンドを使用して SummitQ または SummitE PCI カードの BIOS のオプションを有効にすると、BIOS セットアップメニュー画面のブートアップ優先度のリストから Intel NIC が削除されます。

また、Northstar のカードを使用してインストーラにアクセスすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
A disk read error occurred
```

(ディスクの読み取りエラーが発生しました)

```
Press ctrl + Alt + del to restart
```

(ctrl + Alt + del キーを押して再起動してください)

対処方法

ありません。

Solaris オペレーティングシステムの 問題

Solaris OS の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視してかまわない (6438926、6447850)

Solaris AMD x64 OS サポートには、AMD Opteron エラッタ 131 の BIOS 回避策の有無を確認するブート時チェックが含まれています。エラッタ 131 の回避策が必要であるのに、まだ実装されていないことを検出すると、Solaris OS は次の警告メッセージをログに記録して表示します。

```
WARNING: BIOS microcode patch for AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm)  
processor erratum 131 was not detected; updating your system's BIOS  
to a version containing this microcode patch is HIGHLY recommended or  
erroneous system operation may occur.
```

(警告：AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm) プロセッサエラッタ 131 用の BIOS マイクロコードパッチが検出されませんでした。システムの BIOS をこのマイクロコードパッチを含むバージョンに更新することを強くお勧めします。更新しないと、システムの誤動作が発生する可能性があります)

対処方法

Sun Fire X4100 M2 サーバーおよび Sun Fire X4200 M2 サーバーの BIOS は、エラッタ 131 に必要な回避策を含む上位回避策を実装しているため、この警告メッセージは無視してかまいません。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題

Windows システムにプラットフォーム固有のドライバをインストールするとき、NVIDIA Network Bus Enumerator のドライバを手動でアップデートする必要がある (6464839)

InstallPack.exe スクリプトを実行してプラットフォーム固有のドライバをインストールするとき、NVIDIA Network Bus Enumerator のドライバの 1 つが正常にインストールされない場合があります。この問題が発生すると、次のメッセージが表示されます。

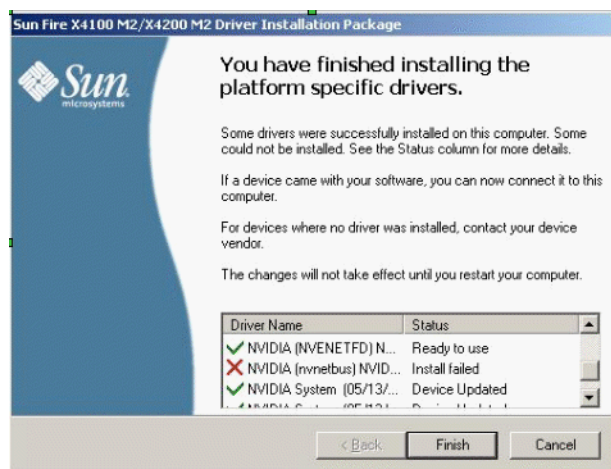


図 5 NVIDIA Network Bus Enumerator のエラーメッセージ

対処方法

次の手順に従って、InstallPack.exe スクリプトでインストールされなかったドライバを手動でインストールします。

1. 「デバイスマネージャ」を開きます。

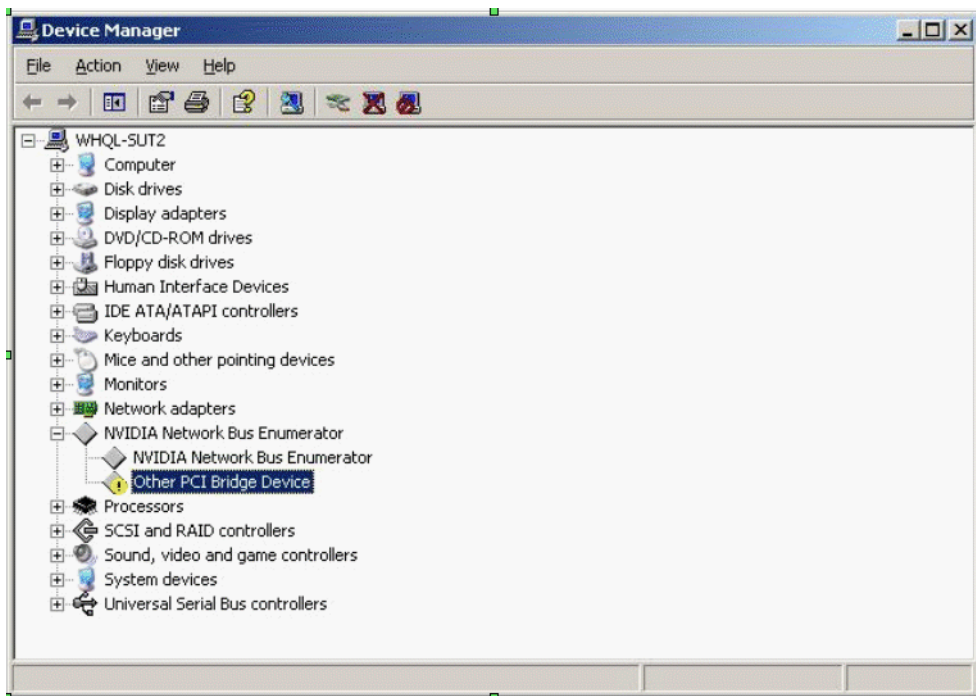


図 6 「デバイスマネージャ」のツリー

2. 「デバイスマネージャ」ウィンドウで NVIDIA Network Bus Enumerator のアイコンをダブルクリックし、「ほかの PCI Bridge デバイス」を選択します。
3. 「ほかの PCI Bridge デバイス」を右クリックします。

4. 「ドライバの更新」を選択します。ハードウェアの更新ウィザードの「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックスが表示されます。



図 7 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックス

5. 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」ダイアログボックスで、次のオプションを選択します。
いいえ、今回は接続しません
6. 「次へ」をクリックします。ほかの PCI Bridge デバイスのインストール画面が表示されます。

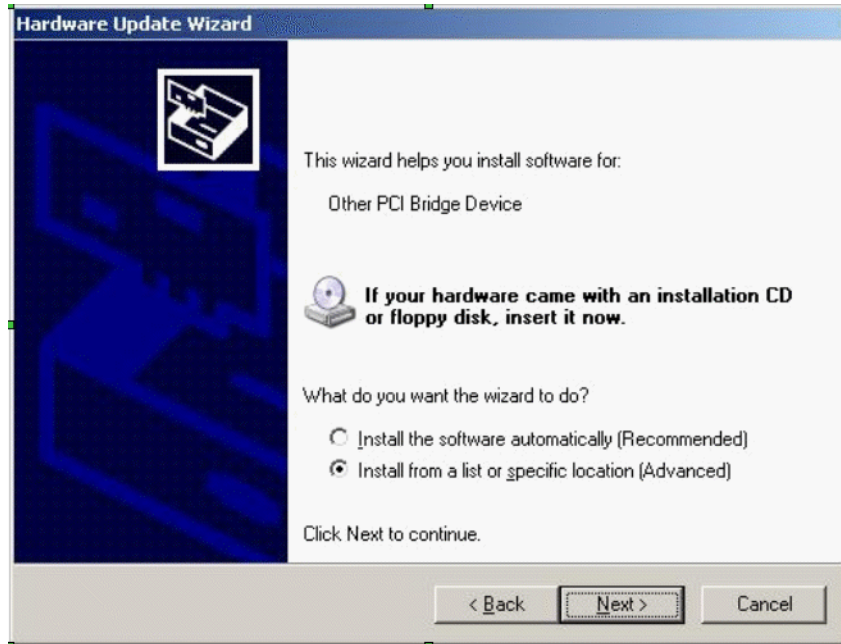


図 8 ハードウェアの更新ウィザードのほかの PCI Bridge デバイスのインストール画面

7. 「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」を選択します。
8. 「次へ」をクリックします。検索とインストールのダイアログボックスが表示されます。
「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択します。
9. 「次へ」をクリックします。「ハードウェアの種類」ダイアログボックスが表示されます。
10. ツリーの上に表示される「すべてのデバイスを表示」を選択します。

11. 「次へ」 をクリックします。デバイスドライバ選択のダイアログボックスが表示されます。



図 9 デバイスドライバ選択のダイアログボックス

12. 「ディスク使用」 をクリックします。「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
13. 「参照」 をクリックします。「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。

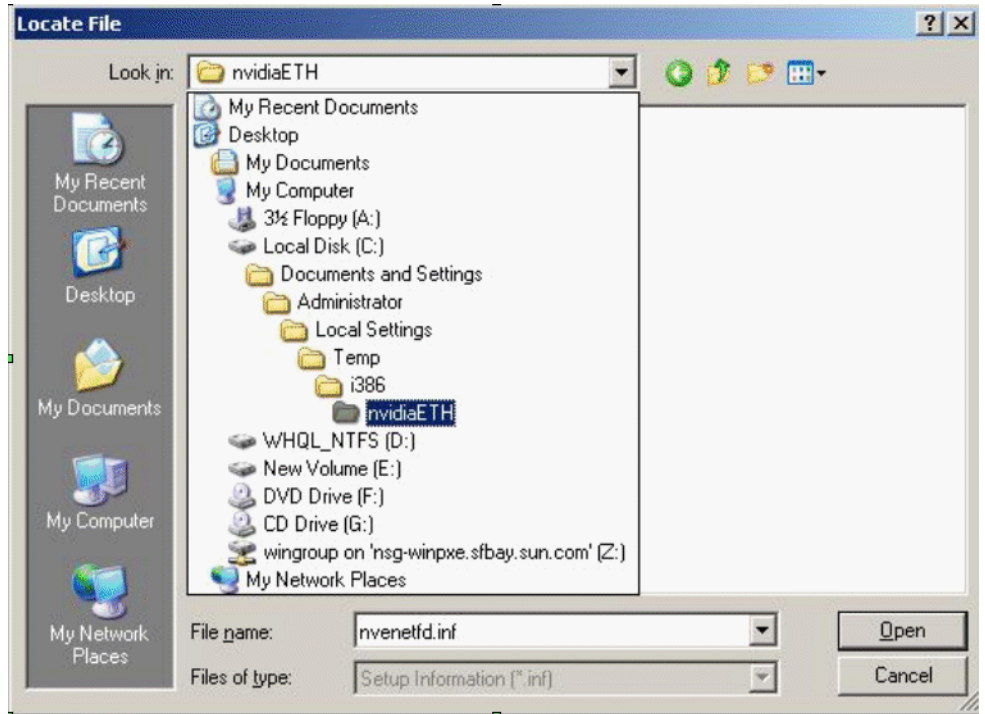


図 10 「ファイルの場所」ダイアログボックス

14. 次の場所へ移動します。

```
C:\Documents and Settings\Administrator\Local  
Settings\Temp\i386\nvidiaETH
```

15. nvenetfd.inf を選択します。
16. 「開く」をクリックします。「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
17. 「OK」をクリックします。デバイスドライバ選択のダイアログボックスが表示されます。



図 11 デバイスドライバ選択のダイアログボックス

18. 「NVIDIA Network Bus Enumerator」を選択します。
19. 「次へ」をクリックします。「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。
20. 「完了」をクリックします。「デバイスマネージャ」に「NVIDIA Network Bus Enumerator」が正しく表示されます。

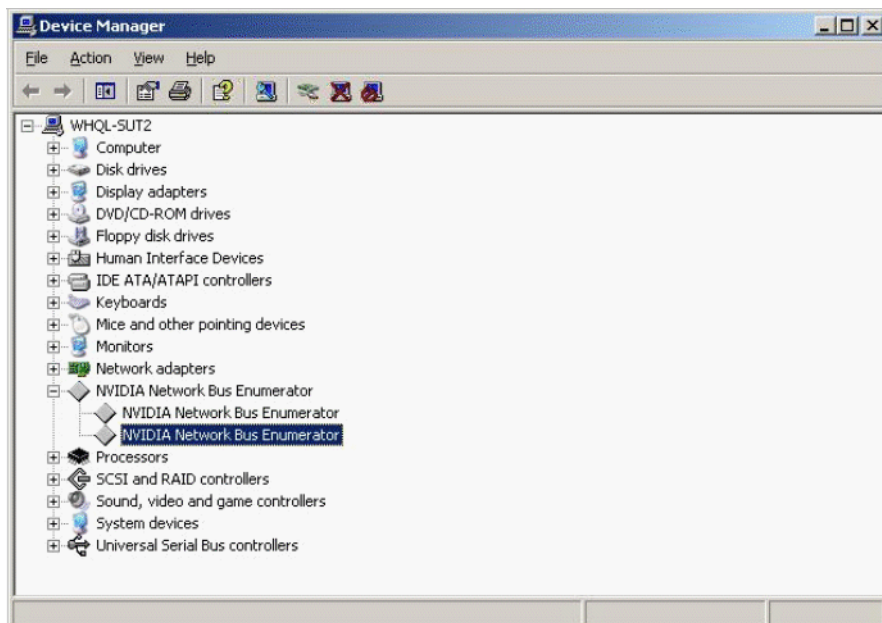


図 12 デバイスマネージャ

複数のフロッピードライブが存在すると、Windows ユーティリティの mkfloppy.exe により正しいフロッピードライブが選択されない

FloppyPack.zip に収録されている mkfloppy.exe ユーティリティは、任意の Windows システムで実行できます。このユーティリティは、Windows Server 2003 のインストール時に使用する大容量記憶装置ドライバのフロッピーを作成するために使用します。

しかし、USB 接続のフロッピードライブを含め、システムに複数のフロッピードライブが存在すると、mkfloppy.exe により正しいフロッピードライブが選択されません。

対処方法

mkfloppy.exe を使用するときは、システムのフロッピードライブが 1 つしかないことを確認してください。

SunVTS のブート可能診断 CD

SunVTS のブート可能診断 CD バージョン 2.1f の .iso イメージからブートする場合に表示されるメッセージは無視してかまわない (CR 6470488)

仮想 CD-ROM ドライブまたは CD-ROM モデルを使用して SunVTS のブート可能診断 CD バージョン 2.1f の .iso イメージからブートする場合に、次のようなメッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視してかまいません。

```
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING:
(9 月 7 日 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.warning] 警告 :)
/pci@0,0/pci1022,7460@6/pci1022,7464@0,1/storage@1/disk@0,0(sd0):
Sep  7 03:49:11          Error for Command: read(10)          Error
Level: Fatal
(9 月 7 日 03:49:11          コマンドのエラー: read(10)          エラーレベル :
重大)
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  Requested Block:
109118          Error Block: 109118
(9 月 7 日 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  要求されるブロック :
109118          エラーブロック : 109118)
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  Vendor:
AMI          Serial Number:
(9 月 7 日 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  ベンダー: AMI
シリアルナンバー :)
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  Sense Key: Media Error
(9 月 7 日 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  センスキー: メディア
エラー)
Sep  7 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  ASC: 0x11(unrecovered
read error), ASCQ: 0x0, FRU: 0x0
(9 月 7 日 03:49:11  scsi: [ID 107833 kern.notice]  ASC: 0x11(未回復の読
み込みエラー) , ASCQ: 0x0, FRU: 0x0)
```

対処方法

ありません。

ブート可能診断 CD (Version 2.1f) の「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (6465167)

ブート可能診断 CD バージョン 2.1f に組み込まれている SunVTS 6.2 のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) には「Meter (メーター)」ボタンがあります。この「Meter (メーター)」ボタンは、ブート可能診断で使用できない Solaris `stdperformer` ユーティリティを必要とするので、機能しません。

ハードウェアの問題

この章では、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関連するハードウェアの問題について説明します。

注 – 問題の記述において特定のプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに該当します。

推奨できない光学式マウスおよびキーボード (6299692、6317710、6304725)

次の Sun の光学式マウスを Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーで使用することはお勧めできません。

- Type 5c
- Type 6c

次のキーボードを Sun Fire X4200 サーバーの前面一番下の USB ポートで使用することはお勧めできません。

- Microsoft Digital Media Pro キーボード (6304725 は、このキーボードに限り Release 1.1 で解決済みです。Release 1.1 にアップグレードしたシステムでは、このキーボードを使用できます)
- Belkin キーボード

「Bank Interleave Requested But Not Enabled (要求されたバンクインタリーブが有効になっていません)」というメッセージが表示される (6464704)

このメッセージは、1つのCPUにシングルランクのDIMMが1組だけ搭載されているシステムで、電源投入時の自己診断テスト (POST) を実行中に表示されます。この構成では、バンクインタリーブはサポートされません。

対処方法

ありません。このメッセージは、情報目的でのみ表示されます。

索引

G

GUI リポート、イベントフィールドに関するメッセージ 30

I

ILOM Web GUI → 「Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI の問題」を参照

J

Java ES ソフトウェア 2

Java Remote Console (Java リモートコンソール) の問題 13 - 15

L

LSI ファームウェアの問題 6 - 8

M

「Meter (メーター)」ボタン、ブート可能診断 CD 43

P

PCI-X

スロットの速度、Sun Fire X4100 18

スロットの速度、Sun Fire X4200 17

R

RedHat Enterprise Linux (RHEL) 9

S

Solaris 10 3/05 HW1 オペレーティングシステム 1 - 2

Sun Fire X4100

PCI-X スロットの速度 18

Sun Fire X4200

PCI-X スロットの速度 17

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI の問題 9, 10

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) コマンド行インタフェースの問題 10 - 12

Sun Java Enterprise System (Java ES) ソフトウェア 2

Sun N1 System Manager ソフトウェア 2

SunSolve ウェブサイト vii

SunVTS のブート可能診断 CD 42

Sun テクニカルサポート、リンク先 ix

SUSE Linux Enterprise Server 9

SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 9

あ

アクセシビリティの問題 14

い

イベントフィールドに関するメッセージ、GUI リポート 30

お

オペレーティングシステムの問題

「RedHat Enterprise Linux (RHEL)」、 「SUSE
Linux Enterprise Server (SLES)」も参照

き

機能、新 1,2

さ

サービスプロセッサの問題 8-15

し

新機能 1-2

シンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) の
問題 11-12

せ

製品アップデート viii

つ

追跡番号 vii

て

テクニカルサポート、リンク先 ix

と

ドライバアップデート viii

は

ハードウェアの問題 45

ふ

ファームウェアアップデート viii

ファームウェアの問題 6,8

ブート可能診断 CD、「Meter (メーター)」
ボタン 43

へ

変更リクエスト番号 vii